

## ごあいさつ (事業の概況)

初夏の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は変わらぬご支援を賜り有り難く厚くお礼を申し上げます。

新たな元号となった令和元年度のわが国経済は、前半においては非製造業を中心とした設備投資の堅調な拡大と、雇用、所得環境の改善が続いたことによる個人消費の増加から緩やかな景気回復が続いた上、公共投資についても拡大に転じました。

一方、海外経済においては、米中貿易問題の深刻な状況が継続するとともに、英国のEU離脱問題など地政学リスクによる世界経済の先行き懸念を払拭できない不安定な状態にありました。

こうした中、地域経済においては、少子高齢化や人口減少等の構造的な問題に加え、後継者不足による事業継承問題や人手不足が深刻化する状況にありました。更に、年後半の10月からの消費税増税による個人消費の落ち込みや、今冬の記録的な暖冬少雪が地域経済に影響を与える中、足元では年明けから続く新型コロナウイルスの感染拡大が世界的な広がりを見せ、その終息が見通せない状況にあり、来年度の地域経済、企業業績に大きく影を落とすことが懸念されている現状です。

このような状況下において、当金庫の業績につきましては、預金は期末残高210,894百万円となり、一般法人及び公金預金の増加により前年度期末比1,058百万円の増加となりました。

貸出金は期末残高70,699百万円となり、一般法人貸出は増加いたしました但し個人及び地方公共団体等向け貸出の減少により前年度期末比1,025百万円の減少となりました。

損益状況につきましては、マイナス金利による低金利環境が続き貸出金利や余資運用利回りの低下による厳しい収益環境の中、本業の事業活動による収益力を示すコア業務純益は、経費の削減効果が寄与し259百万円と前期比12百万円の増加となりましたが、与信関連費用等の増加により、経常収益は104百万円、当期利益は110百万円となりました。

令和元年度は当金庫の『しんきん「共創力」発揮3か年計画』の第2年度にあたり、この3か年計画では、信用金庫の原点である「相互扶助」の理念に基づき、円滑な金融仲介機能の発揮や良質な金融サービスの提供に努めるとともに、地域やお客様の様々な課題解決に取り組み、地域やお客様を支え、豊かな地域の未来を創り上げていく共創により、当金庫自らの経営基盤を強固なものにし、地域に信頼され、地域に必要とされ、地域に愛され、地域や地域の皆様方のお役に立てる金融機関を目指してまいりました。

これら目指すべき姿の一環として令和元年8月1日付で組織変更を行い、取引先支援部を新設し、お客様の支援態勢の更なる強化を図ることいたしました。

引続き、お客様や地域に信頼される金融機関として健全経営に努めるとともに、コンプライアンスを経営の最重要課題と位置付け、その上で、中小企業や個人のお客様の抱える諸問題をきめ細やかに把握し、金融仲介機能・コンサルティング機能を十分に発揮することにより、協同組織の金融機関である当金庫の使命を果たすべく取組んでまいります。

そのためには、コンサルティング機能等を発揮できる職員の育成・強化や、行政、外部機関、専門家の方々などとの連携を強化し、一層の支援体制の整備に努め、地域の持続的発展に貢献すべく役職員一丸となって業務に邁進する所存でございます。

結びに皆様方の一層のご発展、ご隆昌を心からお祈り申し上げますとともに、新年度も一層のご愛顧を賜りますよう切にお願い申し上げます、ご挨拶いたします。

令和2年7月



理事長 大堀 芳和